

2026年3月22日午前10時30分

受難節第5主日 主日礼拝

司会 服部直子
奏楽 金井文子

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあきつ)

前奏

招きのことば ヘブライ 2:17-18

讚美歌 294「人よ、汝が罪の」 一同
交読詩編 22:25-32(P.28/24)

祈り 司会者

《関東教区お祈りカレンダー》

埼玉中国語伝道所 久喜復活伝道所 在日大韓新鴻教会
(主の祈り)

讚美歌 303「丘の上の主の十字架」 一同

聖書 旧約:哀歌 3:18-33(P.1289)
新約:マルコ 10:32-45(P.82)

メッセージ『仕える生き方の喜び』

祈り 川上 盾 牧師

讚美歌 534「キリストの使者たちよ」 一同

献金 一同
(献金感謝の祈り)

信仰告白(レントのラナー 第5主日) 一同

頌栄 94(5)

祝禱 川上 盾 牧師

後奏

報告・紹介

＜招きのことば＞ヘブライ 2:17-18

イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。事実、御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人々を助けることができになるのです。

《3月礼拝当番》 徳江由利 田村 啓
小林友栄 楠元 桃
奈良正太郎 鈴木容子

《今週の集会・行事》

◎ 本日 13:00 CS午後礼拝 スタッフ会議

◎ 27日(金) 10:00 会堂清掃 C組

◎ 27日(金) 牧師、共愛学園理事會

《次週の主日》 棕櫚の主日(受難週に入る)

◎ 主日礼拝 10:30

メッセージ『ゴルゴタは今日も続いている』

聖書:旧約:イザヤ 50:4-7(P.1145)

新約:マルコ 15:33-41(P.82)

讚美歌 309, 302(1-3), 306(1-4), 100(6)

交読詩編 24:1-10(P.29/25)

司会:楠元桃 奏楽:徳江由利

◎ 4月 定例役員会 礼拝後

《予 告》

◎ 聖研祈禱会(受難週祈禱会) 4/1(水)10:30&19:30

◎ イースター 4/5(日)

CS-8:00 礼拝-10:30 墓前礼拝-13:30

《報 告》

◎ 次週は棕櫚の主日です

イエス・キリストの十字架への歩みを覚え、キャンドルの火を一本ずつ消しながら過ごしています。次週は棕櫚の主日、受難週に入ります。

◎ 受難週・イースターのご案内

† 受難週祈りの課題(3/29-4/3)・・・本日配布の4月教会カレンダーに聖書箇所と解説を掲載しています。それぞれで聖書を読み、お祈り下さい。

† イースター(4/5)・・・*CS礼拝 8:00 より。エッグハント。*イースター礼拝 10:30 より。聖餐式。*墓前礼拝 13:30 より。納骨式。*今年もイースター献金にご協力下さい。(献金袋あり)

† 墓地清掃 については、協力者が得られませんでしたので、4日(土)14:00 から行ないます。教会墓地の調査も併せて行ないます。

◎ 佐敷教会・金井創牧師のこと

先週月曜日、沖縄・辺野古沖で平和学習中の高校生と船長が亡くなるという本当に悲しく痛ましい事故が起きました。船長は日本基督教団佐敷教会の金井創牧師、以前群馬地区大会の講師として来て下さった方です。辺野古の基地建設への抗議運動にずっと関わってこられました。今回の事故をめぐって、平和学習や抗議運動への心ない誹謗中傷がネット上に溢れています。教区宣教部委員長・飯塚拓也さんがいち早く“思い”を公表して下さいました。掲示とプリントを用意しましたのでお読み下さい。

《消 息》

◎ 熊谷亮子さん・・・外出中転んで手を突かれた際に、指を骨折されました。一日も早い回復が備えられますように。

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献 金
主日礼拝			
婦人会例会	13		

《メッセ》「栄光の山から下りて」

出エジプト 24:12-18, マルコ 9:2-10(3月15日)

▼先週、15年目の「3.11」を迎えた。突然の震災によって奪われた「日常」が、再び回復する日が来ることを信じ、祈りたい。一方中東では、米・イスラエルが始めたイランへの攻撃が、人々の日常を悲しみと怒りの場へと変えてしまった。「力による平和」の欺瞞性を感じざるを得ない。いまイエスがおられたら、この現実に対し何と言われるだろうか。▼今日の聖書は「山に登る人」の姿が描かれる。旧約はモーセ、エジプトの奴隷状態から解放された後、十戒(律法)を授かるために40日間山に登った。山は神と出会う場所であり、神聖で栄光に輝く場所...そんなイメージに包まれる。▼しかしモーセがその栄光に包まれていた時、下界ではとんでもないことが起こっていた。モーセの不在に不安を感じた人々が、金の子牛の像を作りそれを拝み始めたというのだ。これはヤハウェの神が固く禁じた「偶像崇拜」に他ならない。するとそのことを神さまから告げられたモーセは、栄光の山を下り、人間の罪のうごめく日常へと帰っていくのである。▼新約は、先週取り上げたペトロの信仰告白と、「十字架を背負って従いなさい」という教えに続く出来事である。イエスが身近な弟子を連れて山に登られると、突然イエスの衣が白く光り輝き、モーセとエリヤが現れて、イエスと三者会談をした...というのである。▼モーセといえば律法を代表する人物、エリヤは預言者を代表する人物として描かれる。「律法と預言者」という言葉は、「旧約の伝統を表すもの」という意味合いにおいて用いられる(ルカ 16:16)。「これはよいよ、神の国到来の前触れか...?」そんな思ひからだろうか、ペトロは「すばらしい!小屋を3つ建てましょう!」とワケも分からず語った。▼ペトロの気持ち、わからなくもない。「栄光の場面に立ち会った!」という興奮から語っているのだろう。私たち人間は「栄光(勝利)を求める生き物である(だからオリンピックはWBCを楽しむ)。それは私たちの心を前向きに、明るくしてくれる。▼しかしそのようなポジティブな面だけではない。「栄光を求める心」が民族対立、国と国の紛争という局面で現れる時、とんでもない暴力性と結びついてしまうのである。栄光を求める心は、私たちの罪と結びつきやすい。▼言われたイエスはどうか?「そのことを誰にも言うてはならない」と命じられた...そう記される。いわゆる「メアの秘密」と呼ばれる、他にもいくつか見られるようなイエスの振る舞いである。なぜ秘密にするのかは分からない。しかし栄光を求める弟子たちや信奉者の思いと、イエスの本当の思いとの間にギャップがあることはうかがえる。▼ここにもう一つ確かなことがある。イエスは弟子たちが羨むような栄光の山にとどまらず、人々の暮らす日常と関わるため山を下りていかれたことである。いと小さき者を癒し、抱きしめ、救うために...。その行く末にあるものは...?十字架の苦しみである。イエスはその道を選んだこともできた。しかし避けずに歩み続け、そうすることによって私たちに大切な「何か」を示された。その「何か」とは何か?ずっと問い続けよう。